

雨あまづい上郡町奥かみしおじちみうおく

今いまから、六五年ねんぐらい前まえの大正時代たいしょうじだいの、奥村おくむらでのお話はなしです。

六月がつになり、奥村おくむらでも田植たうえの季節きせつがやってきました。

でも、奥村おくむらの田たんぼの中なかには水みずは一滴いってきもありません。このところ、雨あめがふらないのです。そのうえ、日ひはじりじりと照てりつけるといいう調子ちようしで、田たんぼはからからで、地割じわれさえできています。はやく田植たうえをしないと、お米こめ

がとれません。去年きょねんもお米こめは、とれたというほどとれていません。

奥村おくむらの山やまの上うえには、ため池いけがありました。そのため池いけと田たんぼは一本いっぽんのみぞでつながっています。そのみぞは、土つちでできているので、水みずを流ながしても土つちの中なかにしみ込こむばかりで、田たんぼに流ながれ込こむのは、ほんの少すこしの水みずだけです。ほんの少すこしの水みずでは田植たうえはできません。それで、奥村おくむらの人ひとたちの生活せいかつは、どんどん苦くるしくなるばかりでした。

もう七月がつに近ちかくなりました。その年としは全まったく雨あめが降ふらず、それでなくても、毎年まいとし水みずに困こまる奥村おくむらの人ひとたちは雨あめが降ふってほしいと待まつばかりでした。しかし、雨あめが降ふると

ころか日照りが続くばかりです。ほかの村では、もう田植えも終わり、苗がすくすくと育っています。あとは秋になり、とりいれを待つばかりだというのに、奥村では、田植えも終わっていません。

村人は、頭を抱えて考え込んでしまいました。た。

「なんとかしなければ。」

「このままでは……。」

人々が集まって一生懸命考えた末、雨ごいをする事になりました。雨ごいをするには、神様をまつらなければなりません。そこで、一つは高田で一番高い福峰山に、もう一つは高田川の源の淵におまつりしました。

村人は、どうやっておまつりしようかと、話し合いました。

「どうしたらいいかなあ。」

「ううん、どうしよう。」

村の人は、こまってしまいました。何時間も話し合いを続けて、やっとまとまりました。

さっそく奥村の裏山で切った松の木の枝を切り落とし、十本くらいの束にまとめて、一人一人がかついで山頂めざしてのぼりました。その道のりは、長くけわしく、汗で服がびっしよりぬれてしまうほどでした。道は石がごつごつしていて、足が痛くてたまりません。それでも村の人たちは、それをがまんして、頂上を目指して登り続けました。こども

たちも大人たちに負けずがんばりました。

道は、だんだんけわしくなってきました。

いつ、イノシシや熊が現れるかわかりません。

それでも村の人たちは、登り続けました。

「やっと、着いたぞ。頂上だぞ。」

みんなの顔は、汗びっしりです。

「ハア、ハア。」と、大きくいきをしている人

もいます。しかし、村人は休もうとはしません。

「さあ、始めよう。」

「さあいのろう。」

かっいできた木を山のように積みかさね、

八幡様の御灯明からもらった火をつけました。

火はみるみる燃え上がり、今にも天にとど

きそうです。村人は、その火をとりかこみ、

いのり始めました。老人も、若者も、子どもたちも。

「雨をたんもれ、祇園の神よ。」

「雨をたんもれ、祇園の神よ。」

火の勢いが増すにつれて、人々のいのりの

声は一つになり、大きく周りの山々にひびき

わたりました。村人の心も一つです。

何時間かがたち、

「さあ、これでは、雨を待つばかりじゃ。」

「いのりがつうじて、雨が降ってくれたらなあ。」

と、くちぐちにつぶやきながら山を下りて行

きました。

村人たちは、雨が降るのをひたすら待ち続

けました。

何日かして、やっと雨がふりました。その雨は、あまり長い間は降りませんが、それでも、村の人にとっては、とてもうれしい恵みの雨でした。

「やったぞ。雨が降ったぞー。」

「いのりがつうじたんだ。」

「田植えができるぞ。」

「ばんざーい。ばんざーい。」

村人はよろこび合いました。

「これというのも、祇園さんのおかげだ。」

村の人々は、その日は、仕事を休んで、

一日中、天の恵みの雨を喜び合いました。

村人たちは、祇園さんへの感謝の気持ちを込めて、のぼりを作り、ほうのうしました。

その後、昭和のはじめになり、ため池も大きくなり、土のみぞはコンクリートに作り直され、田にたくさんの水が流れ込むようになりました。奥村では水に困ることもなくなり雨ごいもなくなってすむようになったそうです。奥村の人々は雨ごいをする必要はなくなりましたが、天の恵みの雨をいただいたその時のことを忘れず、今でも祇園さんを「雨の神様」として大切にお祭りしています。

